

## 平成21年度「全国学力・学習状況調査」逗子市の分析結果（中学校）

### 〇はじめに

平成21年4月21日に「全国学力・学習状況調査」（以下「全国学力調査」という。）が行われました。この調査は、昨年に引き続き中学校3年生を対象に実施されたものです。実施内容は「国語」と「数学」の2教科で、それぞれ「主に知識に関する問題A」と「主に活用に関する問題B」がありました。併せて、子どもたちの生活実態の質問紙調査も行われました。

今回の調査は、生徒の学力・学習状況を全国的な状況との関係において把握・分析するとともに、分析結果を踏まえ、各学校において今後の指導方法の工夫と改善に活用すること、本市の教育施策の成果と課題を把握しその改善を図ることを目的としています。

なお、ここでいう学力は全国学力調査で測ることのできた学力の一部であり、子どもたちの持つ学力全てを示すものではありません。

### 1 実施状況

- 調査実施日 平成21年4月21日（火）
- 実施教科
  - ①教科に関する調査（国語、数学）
    - ・主に知識に関する問題（国語A、数学A）
    - ・主に活用に関する問題（国語B、数学B）
  - ②質問紙調査（生活習慣や学習環境等）
- 実施学校・学年・調査数 逗子市立中学校3年生 354名



### 2 逗子市の調査結果の概要（中学校3年生） \*（）は全国の平均正答率との比較です

#### (1)国語A 主に知識に関する問題

- ① 国語Aの設問33問中、全国の平均正答率を上回ったのは24問（内5%以上は1問）、下回ったのは8問（5%以下はなし）、同率が1問でした。
- ② 全体としては、全国の平均正答率とほぼ同程度の結果でした。学習指導要領の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」の四領域にわたっての出題で、「書くこと」「読むこと」は概ね良好でした。

#### (2)国語B 主に活用に関する問題

- ① 国語Bの設問11問中、全国の平均正答率を上回ったのは8問（内5%以上は1問）、下回ったのは3問（5%以下はなし）でした。
- ② 全国の平均正答率とほぼ同程度の結果でした。「書くこと」は概ね良好でしたが、書かれている内容をとらえ、資料に基づいて自分の考えを説明する等に課題が見られました。

#### (3)数学A 主に知識に関する問題

- ① 数学Aの設問33問中、全国の平均正答率を上回ったのは29問（内5%以上は14問）、下回ったのは4問（5%以下はなし）でした。
- ② 全体としては、全国の平均正答率とほぼ同程度の結果でしたが、「数と式」、「数量関係」の二領域は概ね良好でした。全国の平均正答率より33問中14問が5%以上上回ったことは評価できます。

#### (4)数学B 主に活用に関する問題

- ① 数学Aに比べると、全体的に正答率は下がりましたが、数学Bの設問15問中、全国の平均正答率を上回ったのは10問（内5%以上は2問）、下回ったのは5問（内5%以下は1問）でした。
- ② 全体的には概ね良好でしたが、「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」設問は、全国・県と同様に2割に満たない正答率で、課題が見られました。

### 3 調査結果を踏まえた指導の改善

**国語** 国語の指導全体を通じて、四領域をバランスよく指導することはもちろん、各領域を関連付けてそれぞれの能力を培う指導を大切にしていきます。また、読書活動の推進を図ります。

《具体例》○自分の言葉でまとめることを習慣付け、思考力を伸ばす ○辞書を使う習慣を付ける ○話し合いは目的を明確にし、課題に沿って考えを深め、他者の考えと自分の考えを比較する ○自分の書いた文章を読み返したり、生徒同士、互いの文章を読み合う ○複数の資料から必要な情報を探したり、関連性を読み取ったりする

**数学** 基礎・基本の定着を図ることに止まらず、その式の意味をしっかりと理解させること、数学的な考え方を、生活体験に結び付けて活用できること、考えを深めさせる等の指導を大切にしていきます。

《具体例》○式の意味を理解し、文字式で表したり式を用いて説明したりする ○数学的な考え方を、生活体験に結び付けて活用する ○思考の過程を大事にし、自分の言葉で説明する

\* 以上の点について、ご家庭の協力を得て、日常的に生徒を支援していきます。

### 4 質問紙調査の回答から見えてくること

**地域教育力** 地域の大人からも温かく見守られ、進んであいさつしていることが分かります。新学習指導要領を視野に入れ、今後も、地域の協力を得て郷土の伝統・文化を学び、郷土愛を培っていけるよう支援していきます。

**自己肯定感** 自分にはよいところがあると、自己肯定している生徒の割合は、全国を5%以上上回っています。また、人の役に立ちたい、人の気持が分かるようになりたい、いじめはいけないという意識は全体としては、ほぼ全国と同様に高い割合でした。

**学校生活** 学校での生活は友達に会ったりすることが楽しく、好きな授業がある様子が分かります。「総合的な学習の時間」はその目的や、学習することによってどんな力が身に付くのかを伝えながら、生徒が意欲的に取り組むことができるよう、授業の工夫・改善を一層図っていく必要があります。さらに、「総合的な学習の時間」については、新学習指導要領を視野に入れながら、これまでの学習内容を精選し、ねらいがより明確になるような課題解決学習の実践に取り組んでいきます。

**家庭学習** 宿題や予習・復習については、昨年度より若干改善されましたが、相変わらず全国と比較すると十分な状況とはいえない結果でした。基礎学力の向上には授業のあり方だけでなく、自主的な学習が有効だといわれています。小学校入学時から義務教育終了時まで継続する「自主的な家庭学習」の習慣をどう培っていくかを市内公立小中学校の共通課題と認識し、小学校、中学校、家庭との三者の連携を深めながら、指導方法の工夫・改善を今後とも図っていきます。